

令和元年 月 日

保護者 各位

東和地域学校再編準備委員会委員長

東和地域学校再編準備委員会委員

〇〇小学校PTA会長

**学校再編に係るアンケート調査について（依頼）**

現在、東和地域の小中学校の保護者、学校運営協議会、コミュニティ団体及び未就学児の保護者の代表者から構成される、「東和地域学校再編準備委員会」を設置し、当委員会の中で学校再編についての検討を行っております。

今後、当委員会で東和地域及び登米市全体における、将来も含めた子供達のより良い教育環境の実現に向けて検討をしていくにあたって、再編の実施等について広く保護者の皆様の意見を聞き、参考とするために、学校再編に係るアンケート調査を実施することとしました。

つきましては、ご多忙のところ大変恐縮ですが、調査へのご協力をお願いいたします。

## 記

## 1 回答方法

別紙「学校再編に係るアンケート調査票」に必要事項を記入してください。

## 2 提出方法

調査票に必要事項を記入後、別添の提出用封筒に調査票を封入し、お子様の担任教師へ提出してください。

## 3 提出期限

令和元年 月 日（ ）まで

## 4 その他

学校再編の概要については、裏面に記載してありますので、アンケートに回答する前に確認してください。

※ 本調査は、東和地域再編準備委員会で学校再編について検討するにあたっての参考とするためものです。

# 登米市における学校再編について

(登米市教育委員会資料より抜粋)

## 学校再編について

多くの自治体が課題としているように、登米市においても少子化による児童生徒数の減少が課題となっています。この減少傾向は今後も続き、小中学校の学校規模が小規模化することが予想されます。その中で、登米市では目指す学校像として「児童生徒が、多様な考えに触れ、切磋琢磨することで社会の形成者としての基本的資質を伸ばすことのできる学校」を掲げ、小学校・中学校とも、原則として各学年2クラス以上の学級編成となるような学校規模に再編していくこととしました。

### 1 学校規模による教育活動の特徴

学校教育を行ううえで、学校規模によって、学習、生活面・教育指導面などに様々な特徴があります(メリット・デメリット)。次に掲げる学校規模に関してのメリット・デメリットは、都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成したものです。

#### ■学習面

小規模校		大規模校	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
○ 児童生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、ともに努力してより良い集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○ 全教職員による児童生徒一人一人の把握が難しくなりやすい。
○ 学校行事や部活動等において、児童生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。 ○ 児童生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。 ○ 児童生徒数、教職員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。	○ 学校行事や部活動等において、児童生徒一人一人の個別の活動機会を設定しにくい。
	○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	

#### ■生活面

小規模校		大規模校	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
○ 児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○ 集団内の男女比に極端な隔たりが生じやすくなる可能性がある。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	○ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	○ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
○ 児童生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。			○ 全教職員による児童生徒一人一人の把握が難しくなりやすい。

## ■学校経営

小規模校		大規模校	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> <li>○ 学校が一体となって活動しやすい。</li> <li>○ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行にくい。</li> <li>○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくく、免許外指導の教科が生じる可能性がある。</li> <li>○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。</li> <li>○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</li> <li>○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。</li> <li>○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。</li> <li>○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。</li> <li>○ 校務分掌を組織的に行いやすい。</li> <li>○ 出張、研修等に参加しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員相互の連絡調整が図りにくい。</li> <li>○ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒一人当たりにかかる経費が大きくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒一人当たりにかかる経費が小さくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒一人当たりにかかる経費が小さくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒一人当たりにかかる経費が大きくなりやすい。</li> </ul>

## ■その他

小規模校		大規模校	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ P T A 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ P T A 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者や地域社会との連携が図りにくくなる場合がある。</li> </ul>

## 2 考え方

市教育委員会では、大規模校、小規模校それぞれに長所、短所がある中で学校教育は一定の集団で行うことを前提としていることから、一定の学校規模の確保が必要と考え、学校の適正規模・適正配置、学校再編に関する考え方を以下の様に整理しました。

### (1) 学校の適正規模・適正配置

	適正規模	適正配置
小学校	各学年2学級以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>適正規模に満たない場合でも、町域に1校は配置</u></li> <li>・ 通学時間はスクールバスを活用した場合概ね1時間以内</li> </ul>
中学校	各学年2学級以上	当面は町域毎の配置とし、再編が必要な場合は、町域を越えた再編を検討

(2) 校舎などの有効活用 現有の校舎や施設を活用することで、早期の統合が見込まれることから、必要に応じた施設改修等を行った上で有効活用を図ります。

### 3 東和地域の状況

東和地域の各小学校については、今年度はいずれの小学校も学年単学級となっており、錦織小学校と米川小学校は今後複式学級となる学校規模になる見込みとなっております。なお3校併せると単学級（一部学年については2学級）ではあるものの、複式学級とはならない学校規模を確保できる見通しとなっております。

	児童数の推移										校舎の概要	
	学年	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R10	R20	建築年 (経過年数)	面積 (㎡)
米谷小学校	1年生	15	10	14	12	11	15	12			昭和48年 (46年)	床 : 3,622 敷地 : 21,741
	2年生	12	17	10	14	12	11	15				
	3年生	25	14	17	10	14	12	11				
	4年生	10	26	14	17	10	14	12				
	5年生	19	10	26	14	17	10	14				
	6年生	21	20	10	26	14	17	10				
	合計	102	97	91	93	78	79	74				
錦織小学校	1年生	12	8	7	11	11	10	5			平成3年 (28年)	床 : 2,624 敷地 : 13,916
	2年生	8	9	8	7	11	11	10				
	3年生	14	9	9	8	7	11	11				
	4年生	12	13	9	9	8	7	11				
	5年生	9	12	13	9	9	8	7				
	6年生	15	7	12	13	9	9	8				
	合計	70	58	58	57	55	56	52				
米川小学校	1年生	12	13	12	5	5	7	4			昭和46年 (48年)	床 : 3,146 敷地 : 16,930
	2年生	8	11	13	12	5	5	7				
	3年生	11	8	11	13	12	5	5				
	4年生	12	12	8	11	13	12	5				
	5年生	15	12	12	8	11	13	12				
	6年生	2	15	12	12	8	11	13				
	合計	60	71	68	61	54	53	46				

※建築経過年数は今年度時点

※学級編成基準

小学校1、2年生・・・1クラス35人

小学校3～6年生・・・1クラス40人

複式学級・・・2学年合わせて16人未満